令和６年度

亀山市立川崎小学校　研究デザイン

教育大綱　基本方針－１

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員　研究基本方針

一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら、なかまとともに主体的に学ぶために

(1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。

(2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。

(3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。

(4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

１　川崎小学校コミュニティ・スクールとしての基本理念

地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成

２　学校教育目標

「ふれあいを通して人と人がつながり　学びにあふれる学校」

・保護者・地域と情報共有しながら、協働し、大人も子どももつながる

・豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動を創造する

めざす川崎っ子像

① 「川崎小学校十か条」を実行する子

② 自ら進んで学習し、思いを伝える子

③ 違いを認め、受け入れる子

④ 心身共に健康で、命を大切にする子

⑤ 自分と仲間、家族と地域を大切にする子

☆やさしく、かしこく、たくましく☆

めざす教職員像

①児童理解に努め、自らの専門性と指導力の向上に励む教職員

②創造的な発想と多くの対話で、教育課題に積極的に取り組む教職員

③開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を深める教職員

☆明るく、仲良く、元気よく☆

３　研究主題及び研究領域

「一人ひとりの子に『深い学び』を」 ～自分の考えを持ち、対話で深める授業づくり～	研究領域 全教科、全領域

４　研究主題設定の理由

①　児童の実態

児童は、人懐っこく、素直であり、多くの児童が学習に対して一生懸命取り組んでいる。一方で、自分で考えて行動することや課題を解決するために話し合うこと、追求しようとする姿勢は十分ではなく、学力差の二極化も見受けられる。また、国語科や算数科については、「記述問題において、何を問われているのか正確に読み取り、条件に合うように記述や選択、理由を書くこと」「文に合う正しい漢字を書くこと」「正しく計算すること」「図形の面積を読み取ること」等に課題が見られる。本地域には魅力のある地域教材・教育資産があり、地域住民・保護者は学校教育活動にも非常に協力的である。本校には、日々の活動で学んだことをより実生活に生かし、生きる力を育むことのできる教育活動を行うことができる環境が整っている。

②　これまでの成果・課題

昨年度は、研究領域を生活科、総合的な学習の時間、自立活動とし、研究主題を「一人ひとりの子に深い学びを」、サブテーマを「～主体的・対話的な授業づくり～」に設定した。児童の主体性や思考の流れを大切にした課題追及を通して、「深い学び」を実現させることを目指して取組を行った。以下が成果と課題である。

〇児童にとって主体的な活動となるよう、教員が意識して授業をデザインすることができた。

〇座席配置や課題設定を工夫することで、授業において意図的に対話する機会を設定し、話す力・聞く力を身につけていくことができた。

〇全教員が提案授業をしたことで、授業後に考察を交流する機会が多く、指導力の向上につなげることができた。また、それに伴い日々の教育活動に関する教職員間の対話が増えた。

●全ての教育活動でより児童の自己肯定感が高まるよう、学級での生活において、互いに聞き合い、話し合い、互いを認め合える学級づくりをさらに進める必要がある。

●全教員が主体的・対話的な授業づくりを意識して取り組んだが、対話における指標を明確化し、教職員が共通に認識して研究を進めることの必要性を感じた。

●OJTや提案授業を１学期から積極的に実施することで、年間を通した児童の学びの定着と教員の指導法の交流が進みやすいと考えられる。

③　主題設定について

本校の実態及び昨年度の成果と課題から、基礎的・基本的な知識や技能を身につけるための反復学習を行いつつ、他者と協働しながら、主体的に探求していく学びの充実を図る必要がある。他者とつながり、対話していくためには、自分の考えを持たなければ進んで対話することはできない。そこで、研究主題を「一人ひとりの子に『深い学び』を」、サブテーマを「～自分の考えを持ち、対話で深める授業づくり～」とし、研修を進めていくこととする。

今年度は、研究領域を全教科・全領域として、児童が自分の考えを持つことができる課題設定の工夫や効果的な支援を研究する。また、対話的な活動を通して、「対話」チェックシートをもとに、話す・聞く力における系統的な指導を進める。自分の考えを自分から発信できる姿を目指していく中で、より深い学びに到達できるよう取り組んでいくことを通して、児童にとって深い学びとなるよう研修を進めていく。

※「深い学び」とは
　子どもたちが主体的・対話的な学習活動を通して、
　自分の思いや考えを深めたり、変容させたりしていくこと。

5　研究構想図

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成

研究主題
「一人ひとりの子に『深い学び』を」
～自分の考えを持ち、対話で深める授業づくり～

中部中学校区研修主題
主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり
～自ら学びにむかい　なかまとともに高め合う子の育成～

自分の考えを持ち、対話で深める授業づくり　～４つの観点と５つの要素～

1　単元（本時）の導入と課題意識の持たせ方

・子どもたちにとって、魅力的な学習活動や指導展開の工夫
・自分の考えを持つことができる課題や発問の設定
・学習の目的・スケジュール（計画）・学習方法等、学習の見通しの提示
・「めあて」と「ふり返り」を相対させた授業展開の工夫。

→ア　「興味関心」「疑問」「困り感」等を持つ場を設定しているか。

2　よりよい対話の在り方

・教材の特徴を生かした言語活動（対話）の位置づけとペアやグループ、全体など、目的と必要性を意識した対話活動の実施
・自分の考えを友だちと共有したり、比較・検討したり、協議したりする対話場面の設定
・「対話的な学び」を実現する子どもの姿を意識して、低・中・高学年別に設定し対話活動の時に授業者が追求していく。

→イ　「どのように考えたか」を話す・書く場を設定しているか。
→ウ　理由と根拠を入れて話す・書く場を設定しているか。
→エ　「共通点」や「相違点」を考えながら聞く・読む場を設定しているか。

3　学習評価

・学習のねらいに沿った視点の提示
・子どもの学びの変容の把握と次の学習や指導への活用

→オ　「だから」「つまり」「これらのことから」などの言葉を使ってまとめる（話す・書く）場を設定しているか。

○話しやすい環境の設定

・児童の実態に応じた座席の工夫など、話しやすい環境の設定

4　「対話」スキルチェックの確認

・「対話」スキルチェック表をもとに、子どもの現状を把握し、各学年の到達する姿を意識して整理する。

学びの土台づくり

基礎的・基本的な知識・技能の定着

・「ぐんぐんタイム」の実施　・「ｅライブラリ」の活用　・自主学習ノート　・家庭学習の習慣化
・読書活動の充実　・習熟度別学習の実施

なかまづくり　子ども理解と子ども支援

・互いを認め合えるあたたかな学級集団づくり　・子ども理解と支援の充実　・学習規律の徹底

6　研究内容

自分の考えを持ち、対話で深める授業づくり

(1)「かめやま授業デザインスタンダード」の実践

・「かめやま授業デザインスタンダード」の取組を継続的に活用した授業を実践し、授業改善を図るものとする。

(2)授業研究の観点

①　単元（本時）の導入と課題意識の持たせ方

・全員が自分の考えを持つことができるように課題設定や発問の工夫を行うとともに、個別指導などを含めた効果的な支援を研究する。
・既習経験、興味関心等に加え、教材の特徴を生かし、子どもたちに魅力的な学習活動や指導展開の工夫を行う。
・見通しをもち、主体的に学習に取り組むために、子どもに学習の目的・計画・学習方法等をつかませる。
・「めあて」と「ふり返り」を相対させた授業展開を工夫する。

②　よりよい対話の在り方

・発達段階に応じた「学習の基盤となる資質・能力」を意識し、言語活動（対話）を単元の中に位置づける。ペアやグループ、全体など、目的と必要性を意識した対話活動を行う。また、児童の実態に応じて、座席の工夫など、話しやすい環境の設定を行う。
・スピーチや児童集会の感想など、話す機会の設定を意図的に行う。
・自分の考えを友だちと共有したり、比較・検討したり、協議したりする対話場面を意識的に設定する。
・「対話的な学び」を実現する子どもの姿を学年別に設定し、対話活動の時に指導者が追求していく。

1年生に求める対話の姿：静かに最後まで、話す人の方を向いて聞く　みんなに聞こえる声で、聞く人の方を向いて話す
2年生に求める対話の姿：反応しながら、理解しようと聞く　理由をつけて順序立てて話す
3年生に求める対話の姿：自分の考えと比べながら、感想や意見を言えるように聞く　根拠を明らかにして話す
4年生に求める対話の姿：感想や意見、質問を言うことができるように聞く　友だちの考えを詳しくしたり、比べたりして話す
5年生に求める対話の姿：話し手の意図や目的を考えながら聞く　例をあげるなど、自分の考えについて根拠をもとに話す
6年生に求める対話の姿：課題に沿った話し合いとなっているか考えながら聞く
聞き手に合わせて、習得したスキルを使って自分の考えを話す

③　学習評価

・学習のねらいに沿って視点を示しつつ、子ども自身の評価として「ふり返り」を書かせる。また、「ふり返り」によって、教師自身が子どもの学びの変容をとらえ、次の学習や指導に生かしていく。

(3)　「対話」スキルチェックの確認

・「対話」スキルチェック表をもとに、子どもの現状を把握し、各学年の到達する姿を意識して整理する。

学びの土台づくり

(1)基礎的・基本的な知識・技能の定着

・自主学習ノート…課題を自ら設定して探究していく学びの土台づくりとする。
・家庭学習の充実…「家庭学習の手引き」を配布し、家庭と連携した家庭学習の習慣化を図る。
・読書活動の充実…朝の読書や読書チャレンジ、ファミリー読書リレー等の読書活動を推進する。
・習熟度別学習の実施…３年生以上の算数科において児童の理解に合わせた指導を進める。
・「ぐんぐんタイム」の実施と「e ライブラリ」の活用
　月に１回の「ぐんぐんタイム」を設け、子どもたちの実態に応じた基礎学力の補充を行うとともに、「e ライブラリ」を活用し、個別最適化した学習に取り組む。

(2)なかまづくり・居心地の良い学級づくり、子ども理解と子ども支援

・なかまづくりや子ども理解、居心地の良い学級につなげるために、Q-U の実施と結果共有に基づくアセスメントと対応策、なかまづくり、学級づくり、ＳＳＴ、人権教育、いじめを見逃さない学校づくり、道徳の授業づくりなどの研修を進める。